



日本



米国



ユーロ圏



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

# 債券・為替ウィークリーレポート (先進国・新興国)



ブラジル



南アフリカ



インドネシア



インド














メキシコ



トルコ







中国

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/16 （12/9との比較）	12/16 （12/9との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
日本 	A+	<b>0.08%</b> （+0.02）		<b>+1.1%</b> 2016年3Q	-	日銀短観の業況判断DIが前回より改善する中、先行きは慎重な見方を示す。米国の来年の利上げペースが想定より早まるとの見方が示唆され、米国金利上昇の動きにつれて、国債利回りは上昇。	日銀の金融政策決定会合が予定され、足元の国債利回り上昇の動きに対しての政策姿勢が注目される。また、政府の月例経済報告や貿易統計の発表が予定される中、2017年度国債発行計画などの動向にも注意が必要。
	A1	 金利横ばい		 景気安定	-		
米国 	AA+	<b>2.59%</b> （+0.13）	<b>117.93円</b> （+2.26%）	<b>+1.6%</b> 2016年3Q	<b>0.75%</b>	市場予想通り、FOMC（米連邦公開市場委員会）では利上げが実施され、市場参加者の経済・金利見通しから、想定より早いペースでの利上げが実施されるとの見方。国債利回りは上昇、米ドルは対円で上昇。	中古住宅販売件数や耐久財受注、消費者信頼感指数などの発表を予定。金融政策の先行きを探る状況で、次期政権の政策期待の持続性と、日本の金融政策をめぐる動きなどからも目が離せない状況。
	Aaa	 金利上昇	 景気安定	 利上げ局面			
ユーロ圏 （*） 	AAA	<b>0.31%</b> （▲0.05）	<b>123.22円</b> （+1.20%）	<b>+1.7%</b> 2016年3Q	<b>0.00%</b>	ユーロ圏のPMIは高水準を維持。ドイツの国債利回りは横ばい。ユーロは対円で上昇。イタリアでは新内閣が発足する中、銀行の資金調達にかかる動向が材料視された。	ユーロ圏の経常収支の発表が予定される中、引き続きイタリアなど各国の政治状況が注目される。英国のEU（欧州連合）離脱と米国の金融・財政政策動向を受けた海外市場からも目が離せない。
	Aaa	 金利横ばい	 景気安定	 据え置き局面			

（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示（\*ユーロ圏についてはドイツの同格付を表示）。※2 10年国債利回りを表示（\*ユーロ圏はドイツ国債利回り）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、米国：フェデラルファンド金利、ユーロ：主要リファイナンス金利を表示、日本は金融政策の目標が無担保コール翌日物からマネタリーベースに変更されたため非表示。





※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/16 （12/9との比較）	12/16 （12/9との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.83% （+0.10）	88.43円 （+1.08%）	+1.3% 2016年3Q	0.50%	FOMC（米連邦公開市場委員会）などを受けて上昇する米国債利回りと同様に、国債利回りは上昇。原油価格が底固い動きをする中、カナダドルは対円で上昇。製造業売上高と中古住宅販売件数はやや低調な内容。	小売売上高やCPI、GDP（国内総生産）などの発表が予定され、引き続き景気回復度合いを探る環境。当面国内の金融政策は維持されるとの見方が強い中、米国の金融・財政政策動向などを受けた海外市場が注目される。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気停滞	↓ 利下げ局面		
オーストラリア 	AAA	2.83% （+0.02）	86.15円 （+0.29%）	+1.8% 2016年3Q	1.50%	企業景況感は前月より悪化するが、雇用統計では雇用者数が市場予想を上回る内容となる。想定を上回るペースでの米国の利上げ観測が高まる中、国債利回りは上昇し、オーストラリアドルは対円で上昇。	政府の予算予測と経済財政中間見通しの発表が予定され、格付に影響する可能性がある。当面現行の金融政策維持が想定される中、米国の金融・財政政策動向などを受けた海外市場が注目される。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	3.41% （+0.14）	82.04円 （▲0.29%）	+3.6% 2016年2Q	1.75%	製造業PMIと消費者信頼感指数は前月から低下するも高水準を維持するなど、景気は堅調。オーストラリアの財政に対する懸念からオセアニア通貨は伸び悩み、ニュージーランドドルは対円で小幅下落。国債利回りは上昇。	発表予定の実質GDP（国内総生産）は、先進国の中で相対的に高い成長が続いていることを示す内容となる見込み。次の金融政策決定会合で利上げが実施されるとの見方が始めており、通貨は堅調な動きとなる見込み。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.70% （▲0.04）	13.59円 （+0.32%）	-0.9% 2016年3Q	0.50%	15日に開催された中銀理事会で、政策金利の据え置きを決定。声明では、インフレ率や景気が想定をやや下回るとした一方、住宅市場の過熱に対する警戒を表明。ノルウェークローネは対円で小幅上昇。国債利回りは低下。	当面の間、中銀は現在の政策金利水準を維持する可能性が高いとしつつも、2017年に利下げを行う可能性もあるとの見方。失業率の発表が予定されるが、原油価格動向やユーロ圏債券市場の影響をより強く受ける見込み。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1か月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国(地域)	格付 (※1)	債券(※2)	為替(対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/16 (12/9との比較)	12/16 (12/9との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
ブラジル 	BB	11.83% (+0.07)	34.81円 (+2.05%)	-2.9% 2016年3Q	13.75%	軟調な景気指標を受けて、短期の国債利回りは低下した一方、中長期の国債利回りは上昇。レアルは対米ドルで小幅下落、対円では上昇。	発表予定のインフレ統計で更なる低下傾向が確認されれば、国債利回りに低下圧力がかかりやすい。レアルは景気刺激策や年金改革法案の進捗に注目しつつも、政治リスク再燃の可能性が上値を抑える要因に。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	↑ 景気回復	↓ 利下げ局面		
南アフリカ 	BBB	8.41% (+0.08)	8.40円 (+0.60%)	+0.7% 2016年3Q	7.00%	インフレ統計は上昇。ゴードン財務相は同国経済が回復しているとの見解を示しつつ、世界経済の不安定さに言及。国債利回りは上昇。ランドは対米ドルで下落、対円では上昇。	IMF(国際通貨基金)は同国について統治能力の弱さが経済成長の重石とコメント。引き続き大統領や財務相などの人事動向に注目。市場は年末に近づく市場参加者が減る中で動意の欠ける展開を予想。
	Baa2	→ 金利横ばい	↓	↓ 景気鈍化	↑ 利上げ局面		
インドネシア 	BB+	7.82% (+0.36)	0.88円 (+1.62%)	+5.0% 2016年3Q	4.75%	中銀が15日に政策金利を据え置き。声明文では、現在の政策は十分緩和的であるとの見方。一方、米国の利上げを受け、資本流出に注意が必要との認識。円安によりルピアは対円で上昇。国債利回りは上昇。	主要な経済指標の発表がない中、同国の為替や債券市場はグローバル市場の影響を受ける公算。年末年始を控え、流動性が低下し、値動きが荒くなる展開には注意が必要。
	Baa3	↑ 金利上昇	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.55% (+0.13)	1.74円 (+1.70%)	+7.3% 2016年3Q	6.25%	インフレ統計は前年同月比で低下。GST(物品・サービス税)の審議は合意に至らず、年内に再審議する予定。国債利回りは上昇。インドルピーは対ドルで下落、円安から対円では上昇。	GST(物品・サービス税)の再審議に注目。冬季国会は閉会したが、来年の予算国会での承認が次の目標。審議の遅延は消費を押し下げる恐れ。市場は年末に近づく市場参加者が減る中で動意の欠ける展開を予想。
	Baa3	→ 金利横ばい	→	↑ 景気回復	↓ 利下げ局面		

(出所: Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示(ブラジル: 4年、南アフリカ: 5年、インドネシア: 5年、インド: 5年)。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高(円安)を上向き、現地通貨安(円高)を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。※政策金利については、ブラジル: Selicレート、南アフリカ: レポレート、インドネシア: 7日物リバースレポ金利、インド: レポレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		12/16 （12/9との比較）	12/16 （12/9との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
メキシコ 	A	<b>6.89%</b> （+0.08）	<b>5.77円</b> （+2.09%）	<b>+2.0%</b> 2016年3Q	<b>5.75%</b>	中銀は政策金利の引き上げを決定。声明文ではインフレ率や金融政策での米国との関係性に言及。市場予想を上回る利上げ幅に国債利回りは概ね上昇。メキシコペソは対米ドルで下落、円安から対円では上昇。	小売売上高やインフレ統計、貿易収支などの発表を予定。米国との貿易関係の先行き不透明感の高まりから、消費は低下する公算。市場は年末に近づき市場参加者が減る中で動意の欠ける展開を予想。
	A3	 金利横ばい		 景気回復	 利上げ局面		
トルコ 	BB+	<b>11.33%</b> （+0.10）	<b>33.95円</b> （+2.30%）	<b>-1.8%</b> 2016年3Q	<b>8.00%</b>	GDP（国内総生産）の伸びが大幅に悪化したことなどから、短期の国債利回りは低下。一方で中長期の国債利回りは上昇。リラは対米ドルで下落、対円では上昇。	20日の金融政策決定会合で政策金利の上限金利にあたる翌日物貸出金利が引き上げられる見込み。政治や地政学リスクの高まりなどが悪材料視されやすく、国債・為替市場ともに上値の重い展開を予想。
	Ba1	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		
中国 	AA-	<b>3.77%</b> （+0.09）	<b>16.97円</b> （+1.77%）	<b>+6.7%</b> 2016年3Q	<b>4.35%</b>	人民元建貸出は市場予想を上回り、前月から増加。鉱工業生産、固定資産投資や小売売上高などの経済指標も概ね良好な内容となったことを受け、香港市場は対円で上昇。香港市場の国債利回りは上昇。	住宅価格の発表を予定。住宅市場の規制強化の中、住宅価格の動向が注目。また年末年始を控え、香港市場の人民元の短期資金市場の流動性が圧迫されており、当局の対応姿勢にも注目。
	Aa3	 金利上昇		 景気鈍化	 据え置き局面		

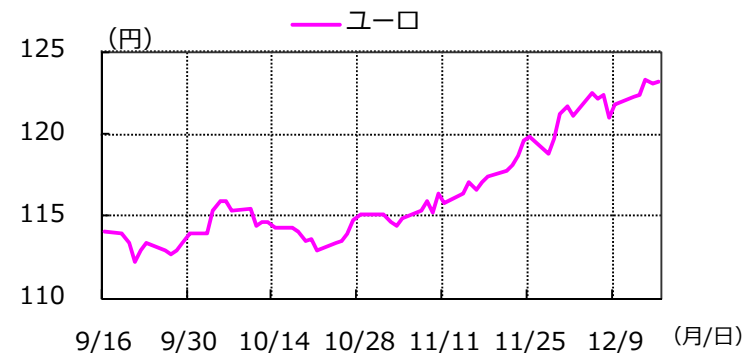
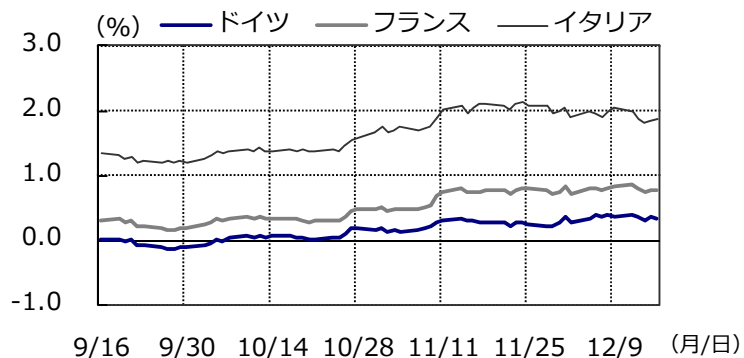
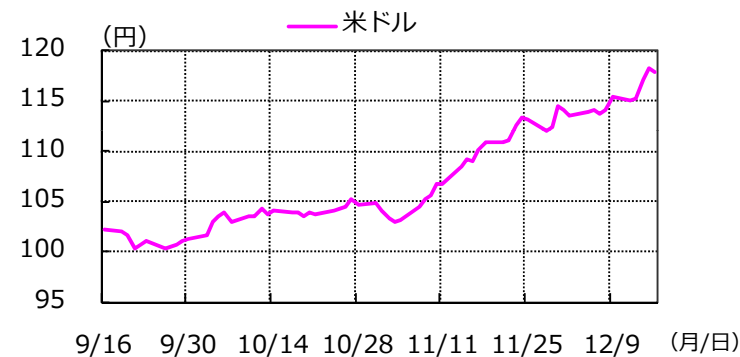
（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。※2 国債利回りを表示（メキシコ：5年、トルコ：5年、中国（香港市場における中国国債の利回り）：10年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。※3 経済成長率については、前年同期比を表示。※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。※為替レートについてはいずれもNY終値（中国の為替は、香港市場における人民元の為替レート）を表示。※政策金利については、メキシコ：翌日物金利、トルコ：1週間物レポレート、中国：1年物貸出金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。



期間：2016/9/16～2016/12/16



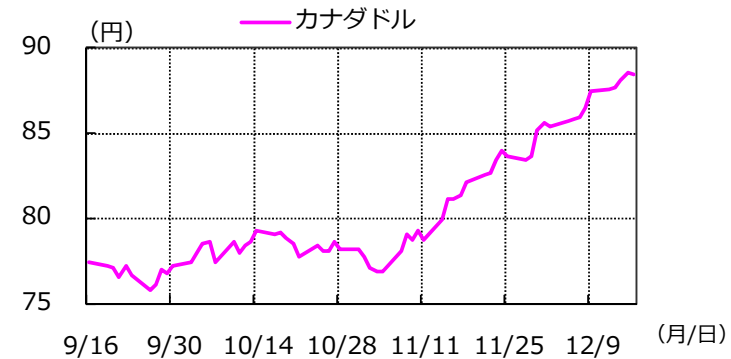
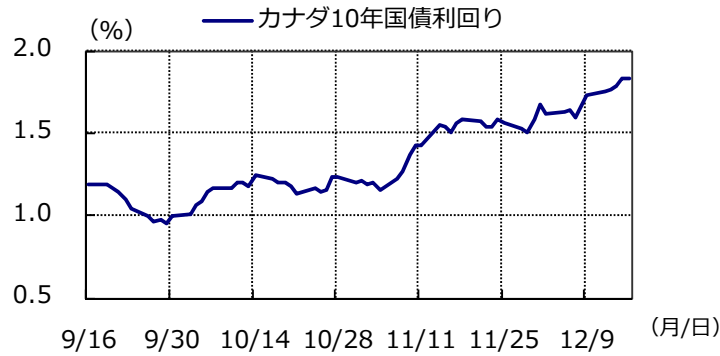
※10年国債利回りを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。 (出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

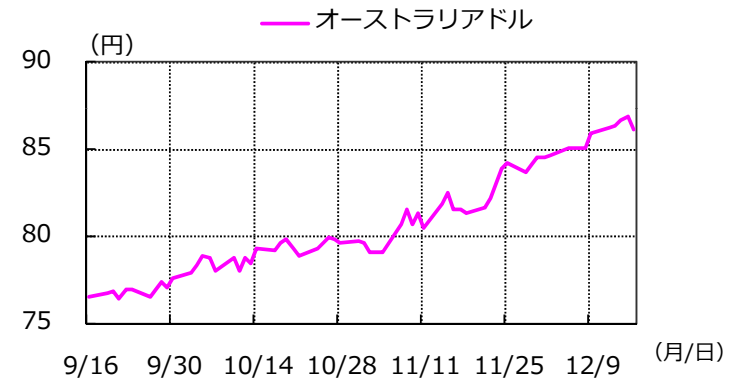
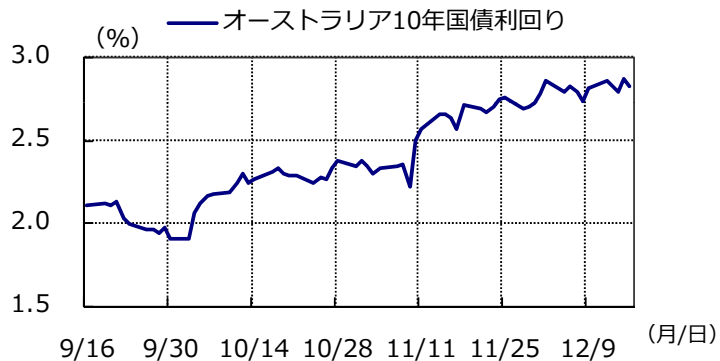
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/16～2016/12/16

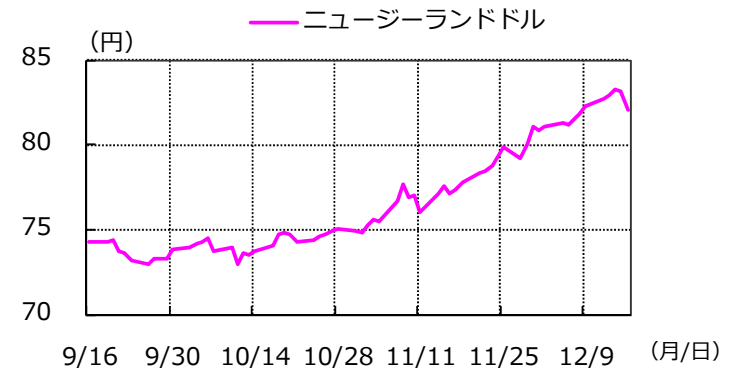
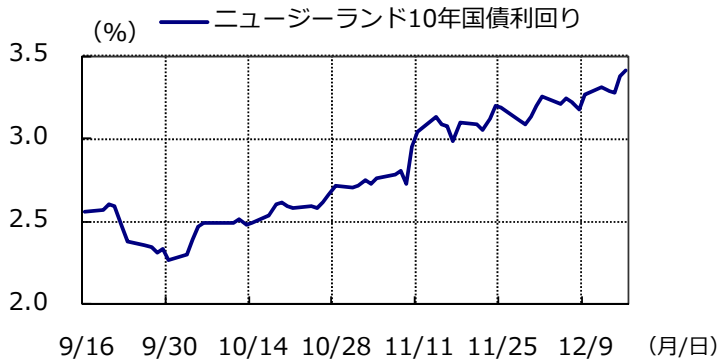
カナダ



オーストラリア



ニュージーランド

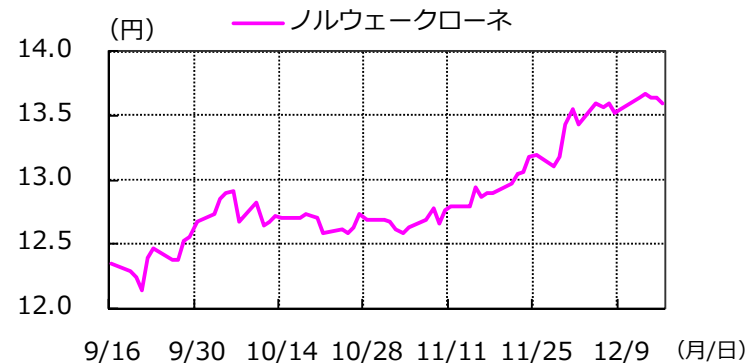
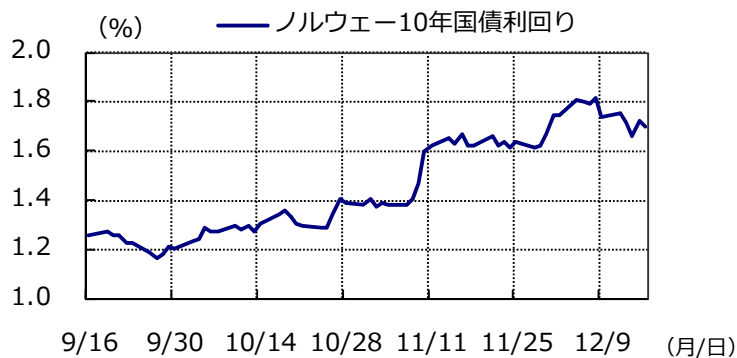


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

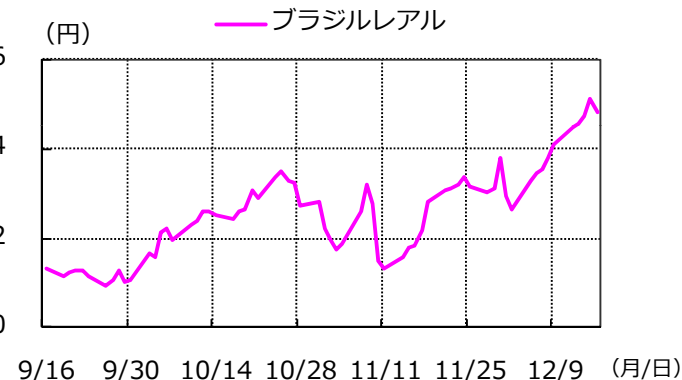
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/16～2016/12/16

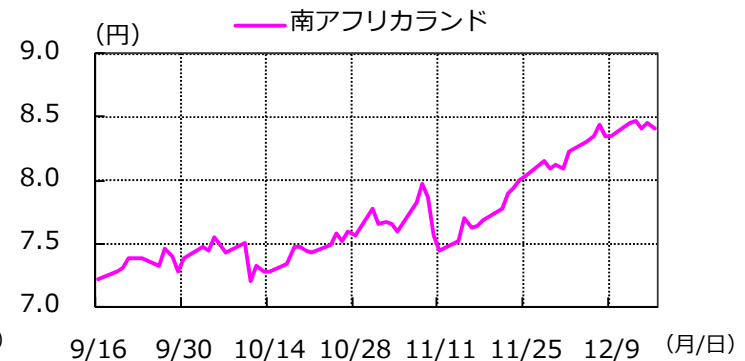
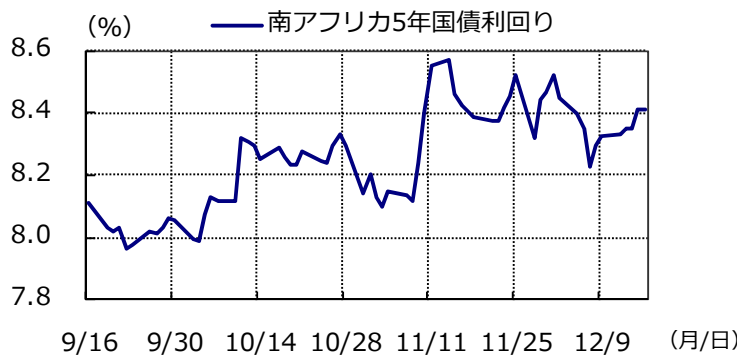
ノルウェー



ブラジル



南アフリカ



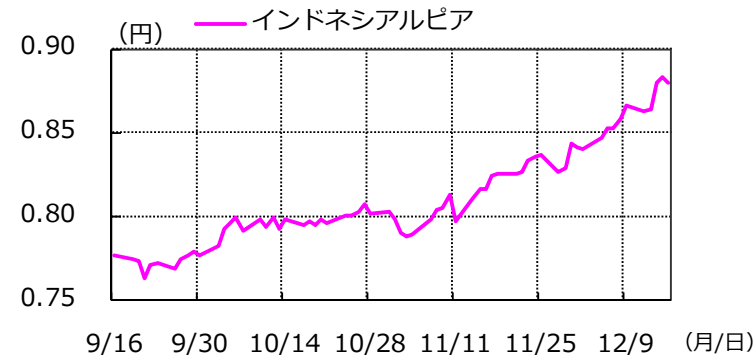
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

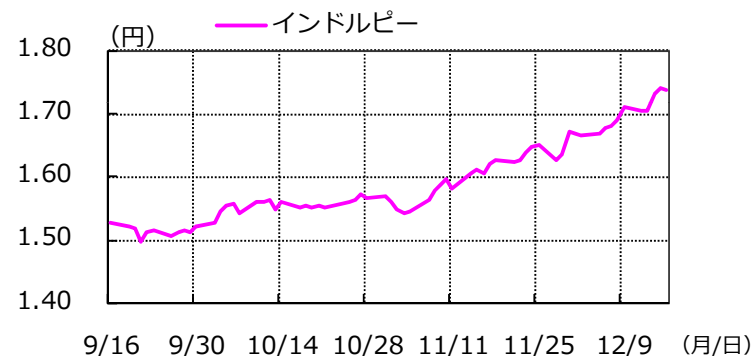


期間：2016/9/16～2016/12/16

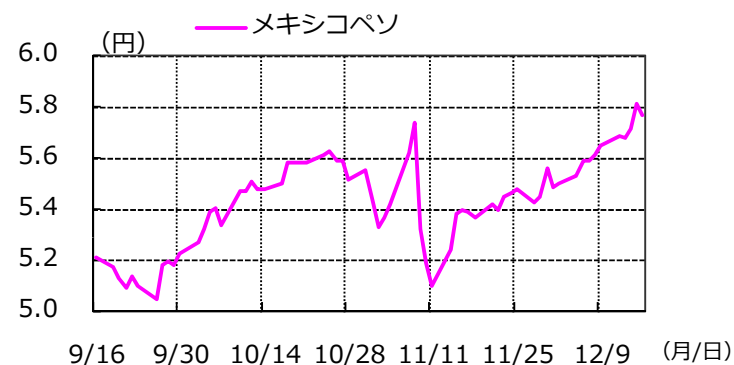
インドネシア



インド



メキシコ

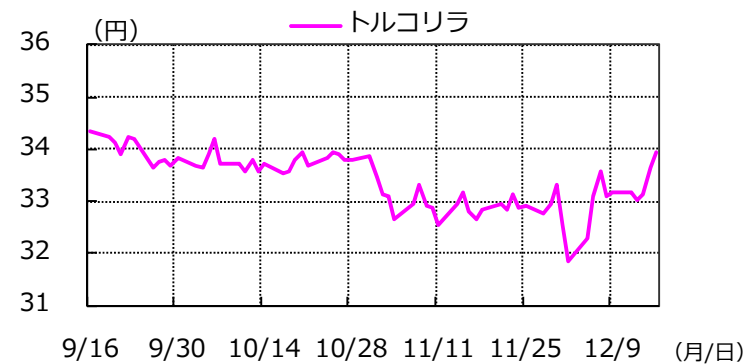


※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。 (出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

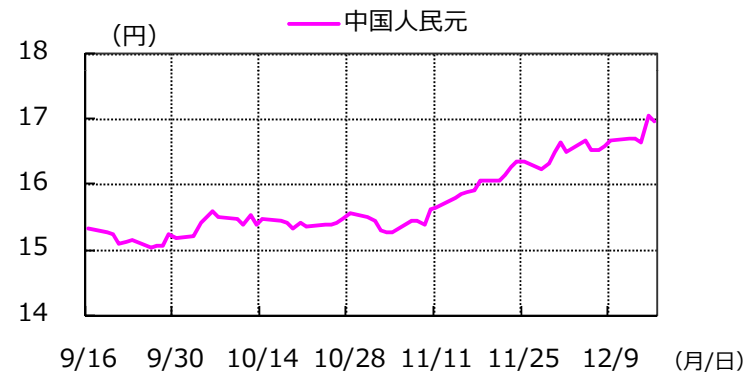
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2016/9/16～2016/12/16

トルコ



中国



※香港市場における中国国債の利回りを表示。

※香港市場における人民元の為替レートを表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：Bloombergのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限4.104%（税込）

信託財産留保額：上限0.5%

公社債投信およびグリーン公社債投信の換金時手数料：取得年月日により、1万口につき上限108円（税込）

その他の投資信託の換金時手数料：ありません

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※ 上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

#### ■ その他費用・手数料

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。